

週間火山概況 (平成 27 年 12 月 4 日～12 月 10 日)

【火山現象に関する警報等の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 12 月 10 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル 5（避難）	口永良部島
火口周辺警報	入山危険	西之島
	レベル 2（火口周辺規制）	吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、桜島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山 (12 月 10 日現在)

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

あづまやま 吾妻山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山活動はやや活発な状態で経過しています。

遠望カメラの観測では、大穴火口からの噴気の高さの最高は50mで、やや活発な状態が続いています。現地調査でも、一切経山西側の弱い噴気が引き続き見られ、また、全磁力¹⁾繰り返し観測では、2014年10月から2015年10月にかけて大穴火口周辺の地下の熱活動の活発化を示す可能性がある変化が観測されたことから、大穴火口及びその周辺で熱活動は引き続きやや活発な状態が続いていると考えられます。

火山性地震、火山性微動は観測されていません。

浄土平の傾斜計²⁾では、2014年4月以降緩やかな西側（火口方向側）上がりの変動で推移し2015年7月頃から停滞していましたが、9月後半頃から西側下がりの傾向となっています。

GNSS³⁾連続観測では、2014年9月頃から一切経山の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015年6月頃から停滞しています。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺（火口から概ね500mの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石⁴⁾、火山ガスに注意してください。

くさつしらねさん 草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山活動はやや活発な状態で経過しています。

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。また、東京工業大学によると、2015年9月以降、北側噴気地帯で噴気活動が活発化しています。北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分に、火山活動の活発化を示す変化が継続しています。

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加しましたが、2014年8月下旬以降概ねやや少ない状態で経過しています。

GNSS³⁾観測によると、湯釜を挟む基線で2014年4月頃からわずかな伸びの変化がみられていましたが、2015年4月頃より停滞しています。また、湯釜周辺に東京工業大学が設置した傾斜計²⁾によると、2014年3月から観測されている湯釜付近浅部での膨張を示す変動は、鈍化しながらも継続しています。全磁力¹⁾観測によると、2014年5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示す変化は、2014年7月以降停滞しています。

小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

あさまやま 浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

火山活動はやや活発な状態で経過しています。6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

9日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁵⁾は1日あたり900トン（前回2日600トン）とやや多い状態でした。

今期間、山頂火口で、夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映⁶⁾を時々観測しています。火口からの噴煙は白色で、火口縁上300m以下で経過しています。噴煙量は6月以降、増加しています。

4月下旬頃から増加している山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は、今期間、やや多い状態で経過しています（図2）。

光波測距観測⁷⁾では、6月頃から山頂と追分の間でみられていた縮みの傾向が、10月頃から停滞しています。傾斜計²⁾による地殻変動観測では、6月上旬頃からの緩やかな変化が継続しています。GNSS³⁾の観測では、5月頃から浅間山を挟む基線でみられていたわずかな伸びは、10月頃から停滞しています。

山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石⁴⁾に注意してください。

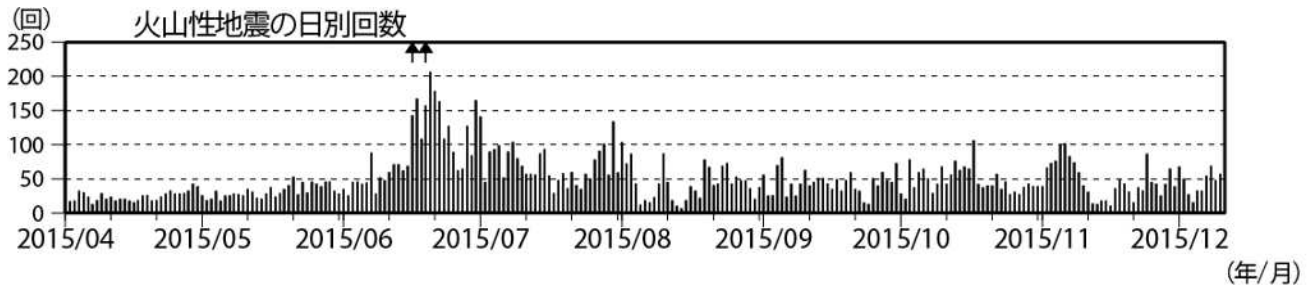


図2 浅間山 火山性地震の日報回数(2015年4月1日~12月10日)(矢印はごく小規模な噴火を示す)

御嶽山 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御嶽山では、火山活動は低下した状態が継続しており、2014年10月中旬以降、噴火は観測されていません。山頂火口からの噴煙は白色で、火口縁上300m以下で経過しています。

火山性地震は、少ない状態で経過していますが、2014年8月以前の状態には戻っていません。

地殻変動観測では火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。

御嶽山の火山活動は低下した状態が続いており、2014年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。一方、火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石⁴⁾に注意してください。

西之島 [火口周辺警報(入山危険)及び火山現象に関する海上警報]

これまでの海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、西之島では、活発な噴火活動が確認されています。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾や水面を高速で広がるベースサージ⁸⁾等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね4km以内の範囲では噴火に警戒してください。

硫黄島 [火口周辺警報(火口周辺危険)及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震は少ない状態で経過しています。振幅の小さな火山性微動を9日に3回観測しました。微動の発生時及びその前後で遠望カメラでは特段の変化は認められませんでした。

国土地理院のGNSS³⁾観測によると、地殻変動は2014年12月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015年3月頃から隆起速度が上がっていましたが、10月以降は2月以前の速度に戻っています。また、2015年4月中旬頃から西向きの変動速度が上がっていましたが、9月以降は停滞しています。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。このことから火山活動はやや活発な状態で経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点(ミリオンダラーホール(旧噴火口)等)及びその周辺では引き続き噴火に警戒してください。

福德岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報]

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されるなど、やや活発な状態で経過しており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

阿蘇山 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

中岳第一火口では、7日08時11分にごく小規模な噴火が発生し、乳白色の噴煙が火口縁上700mまで上がりました。阿蘇山で噴火が観測されたのは、10月23日以来です。

4日03時45分に、中岳第一火口付近のごく浅い所を震源とする振幅の大きな火山性地震が発生し、南阿蘇村中松で震度1を観測しました。火山性地震により震度1以上を観測したのは、5月8日(震度3)以来です。

火山性微動の振幅は、小さな状態で経過していましたが、5日09時頃からやや大きくなり、7日の噴火後は概ね小さな状態となりました(図3)。

9日に実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量⁵⁾は1日あたり1,800トン(前回11月

27日800トン)と多い状態でした。

GNSS³⁾連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線で、8月頃からわずかな伸びの傾向が認められていましたが、11月頃から停滞しています。

中岳第一火口では、昨年(2014年)11月以降、活発な火山活動が続いてきたことから、当分の間は火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石⁴⁾に注意してください。

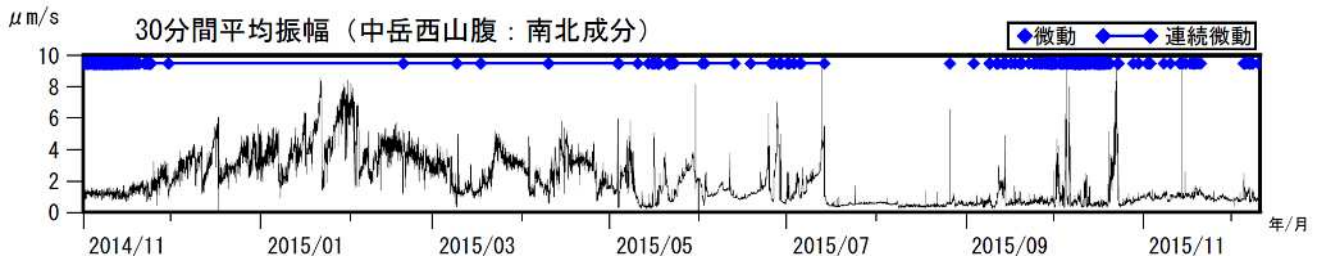


図3 阿蘇山 火山性微動の30分間平均振幅(2014年11月1日~2015年12月10日)

霧島山(新燃岳) [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

火山性地震は時々発生しています。火山性微動は観測されていません。

傾斜計²⁾では、火山活動に伴う特段の変化は認められません。

GNSS³⁾連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかな伸びの傾向が認められていましたが、10月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石⁴⁾(火山れき⁹⁾)が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥流や土石流に注意してください。

桜島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

昭和火口では、9月17日以降爆発的噴火は発生しておらず、9月29日以降は、南岳山頂火口を含めて小規模な噴火も観測されていません。

4日に実施した現地調査では、火口周辺の地形や噴気等の状況に変化は見られませんでした。また、赤外熱映像装置¹⁰⁾による観測では、昭和火口周辺と南岳南東側山腹には、熱異常域が引き続き認められ、これまでの観測と比べ特段の変化は認められませんでした。

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

桜島では火山活動が低下していますが、これまでも噴火活動を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると考えられます。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石⁴⁾(火山れき⁹⁾)が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

口永良部島 [噴火警報(噴火警戒レベル5、避難)及び火山現象に関する海上警報]

新岳では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。

遠望観測では、白色の噴煙が最高で火口縁上100mまで上がりました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されていません。

東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が6日、8日及び9日に実施した観測では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量⁵⁾は1日あたり100トン(前回11月30日200トン)とやや少ない状態でした。

9日から10日にかけて実施した現地調査では、火口周辺の地形や噴気等の状況に変化は見られませんでした。また、赤外熱映像装置¹⁰⁾による観測では、2015年3月頃から5月29日の噴火前に温度上昇が認められていた新岳火口西側割れ目付近の熱異常域の温度は、引き続き低下した状態であることを確認しました。

噴火に伴う大きな噴石⁴⁾の飛散が予想される新岳火口から概ね2kmの範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒(避難等の対応)をしてください。

い。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石⁴⁾が遠方まで風に流されて降るため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径 1.4 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)]

諏訪之瀬島では、今期間噴火は観測されていません。同火口では、夜間に高感度カメラで火映⁶⁾を 8 日から 10 日にかけて観測しました。

火山性地震及び火山性微動は時々発生しています。

諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁴⁾に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石⁴⁾が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

蔵王山 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

8 日 17 時 37 分に継続時間 4 分 48 秒、最大振幅 2.7 μm の火山性微動が発生しました。これまでに観測された火山性微動の中では継続時間、振幅ともに平均的なものでした。傾斜計²⁾では、微動発生に先行してわずかな南東 (山頂の南側) 上がりの変化がみられました。傾斜変化は、微動終了後元に戻っています。

火山性地震は観測されておらず、他のデータにも特段の異常は認められません。

2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014 年 10 月以降わずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定されます。
- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 μrad (マイクロラジアン) は 1 km 先が 1 mm 上下するような変化量です。
- 3) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 4) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 5) 火口から放出される火山ガスには、マグマに溶けていた水蒸気や二酸化硫黄、硫化水素など様々な成分が含まれており、これらのうち、二酸化硫黄はマグマが浅部へ上昇するとその放出量が増加します。気象庁では、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。
- 6) 火映は赤熱した溶岩や高温のガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 7) レーザなどを用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器を用いて、山体の膨張や収縮による距離の変化を観測します。
- 8) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象で、人体や建物、船舶等に大きな被害を与えるおそれがあり、とても危険です。
- 9) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 10) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。

詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

表2 火山現象に関する警報等の発表履歴（平成27年12月4日～12月10日）

発表日時	火山名	特別警報・ 警報・予報	概要
毎日 02時から3時間 毎に8回	阿蘇山 桜島 口永良部島 諏訪之瀬島	降灰予報（定時）	噴火した場合に予想される、降灰範囲及び小さな噴石の落下範囲を予想

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山	
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）	
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒	
レベル4（避難準備）		入山危険	
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	火口周辺危険	
レベル2（火口周辺規制）		活火山であることに留意	
レベル1（活火山であることに留意）	噴火予報		

海底火山については、噴火警報（周辺海域）（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：活火山であることに留意）で発表します。

印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。